



1



2



3



4



5



6



7

1 ウドバー・ハジー・センターではスペースシャトル「ディスカバリー」も見ることができる 2 第2次世界大戦時の日本の戦闘機と、尾翼に「R」の文字がついているのが「エノラ・ゲイ」 3 終戦末期、パナマ運河奇襲を目的に潜水艦にたたんで搭載された攻撃機「晴嵐」 4 零戦以上の性能をもつ戦闘機はないと考えていたアメリカ軍を驚愕させた「紫電改」 5 B-29を迎えうった夜間戦闘機「月光」 6 ドイツの資料をもとに秘密裏に作られたジェット戦闘機「橘花」。すぐに終戦となり陽の目を見ることはなかった 7 特攻兵器「桜花」も展示されている

100年前に日本から贈られたクラが、春の風物詩になっているアメリカの首都ワシントンDC。ここには世界最大の博物館群がある。イギリスの科学者スミソンの遺産をもとに170年以上前に設立されたスミソニアン協会だ。博物館の数は20を超え、なかでも日本人に人気の高いのがウドバー・ハジー・センターである。

郊外にあるセンターには、第2次世界大戦時の日本を代表する戦闘機が7機展示されている。折りたたみ式の攻撃機「晴嵐」、零戦以上の性能をもった「紫電改」、夜間戦闘機「月光」、胴体後部にプロペラを装備した「震電」、日本初のジェット戦闘機「橘花」などが世界を代表する名機とともに公開されているのは、日本の技術力の高さが評価されていることにほかならない。戦争を美化する気持ちはまったくないが、極東の小国、限られた資源を活かしての先人たちの創意工夫には頭の下がる思いだ。センターには特攻機の「桜花」、広島に原爆を投下したB-29「エノラ・ゲイ」も見られ、複雑な心境にならざるを得ない所でもある。